

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成19年6月3日

## 【評価実施概要】

事業所番号	0172000705		
法人名	有限会社 グループホーム花		
事業所名	グループホーム 花		
所在地	小樽市最上1丁目25番4号 0134-27-2104		
評価機関名	(有)ふるさとネットサービス		
所在地	札幌市中央区北1条西5丁目3 北1条ビル3階		
訪問調査日	5月30日	評価確定日	7月5日

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

建物は中古の高齢者共同住宅の改修となっており、利用者にとって住みやすい落ち着いた明るい居場所になっている。エレベーターの設置がない1階と2階を使用しているので比較的介護度の軽い利用者が多く、活発な動きのあるホームである。1対1のケアが充実しており、代表者がしっかりと目標を持って運営されている。利用者が明るく安心して生活している。

## 【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況（関連項目：外部4）
	研修については自主的に毎月課題に取り組み、内部で実施している。地域との関わりを運営推進会議を通して講座の開催にまで進展している。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況（関連項目：外部4）
	ガイドブックを参照しないで自己評価に職員全員で取り組んだ。個々のテーマに十分検討し意見交換に意義があった。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み（関連項目：外部4, 5, 6）
	数回の開催で地域で認知症を理解するための講座を実施した。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映（関連項目：外部7, 8）
	毎月の連絡で意見や要望を呼び掛けているがほとんど反応はない。今後も呼び掛けは継続する。また、面会時の声掛けをする。
重点項目④	日常生活における地域との連携（関連項目：外部3）
	町内会に加入は勿論、老人会に利用者の半数は参加して交流をしている。

## 【情報提供票より】（19年 5月15日事業所記入）

### （1）組織概要

開設年月日	平成16年10月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8 人	常勤 8 人, 非常勤 人, 常勤換算 4. 6 3	

### （2）建物概要

建物構造	木造亜鉛メッキ 造り		
	2階建ての 1～2階部分		

### （3）利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	35,000 円	その他の経費(月額)	25,000 円
敷金	有 ( 円 ) <input type="radio"/> 無		
保証金の有無(入居一時金含む)	有 ( 円 ) <input type="radio"/> 無 <input checked="" type="radio"/>	有りの場合償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,200 円		

### （4）利用者の概要 ( 月 日現在 )

利用者人数	7 名	男性 0 名	女性 7 名
要介護1	4	要介護2	1
要介護3	1	要介護4	1
要介護5		要支援2	
年齢	平均 82 歳	最低 75 歳	最高 89 歳

### （5）協力医療機関

協力医療機関名	小樽病院、朝里病院、三ツ山病院、マサキ歯科医院
---------	-------------------------

## 2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「いつも同じ顔ぶれで自分らしい生活を送れるように支援する」という理念のもとに職員は実践の具体化に取り組んでいる。	○	地域の中で暮らし続けることを理念に加えるよう更に検討し、事業所が地域密着型サービスとしての役割が達成することを期待する。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員は朝のミーティングや申し送りの際に理念に添ったケアの実践を課題として日々取り組んでいる。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	事業所は町内会加入は設立から、更に老人会に利用者の半数以上が加入し、毎月の例会に参加している。また運営者は老人会の役員を担っている。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価を実施するにあたり、職員は各項目について十分話し合い、課題とする点を再認識した。	○	2006年版サービス評価ガイドブックの参照がなく自己評価を記載した。ガイドブックの活用が望まれる。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	過去に運営推進会議を5回開催し、記録も整理されている。また、欠席者には報告がされている。そこでの意見が活かされて地域で「認知症を理解するための講座」が開催された。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	事業所は事務担当者を配置し、行政との話し合いは頻繁に機会を作り、サービスの向上に努力している。		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者の暮らしぶりが分かるような写真入の「ホームだより」と金銭出納の報告書、更に、担当職員が記載した「お便り」を毎月定期的に家族に報告をしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホーム側から家族等に常時意見や苦情の呼びかけをしているが、全く反応はない。今後も継続をする。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の退職はあったが、利用者へのダメージはほとんど見られなかった。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所内で職員は自主的に毎月定期的に研修日を定め、テーマを決めて、各職員が調べて発表する形式の研修をしている。又、外部研修に職員は交替で参加を心がけ報告会も実施している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内のグループホーム協議会に加盟している。管内の数箇所のグループホームと交流をもち職員の訪問などお互いに連携をとってサービスの向上に取り組んでいる。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	申し込みから利用まで間を置かずに即サービスを利用する人が大半だが、ホームは明るい楽しい雰囲気です。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員であるとか、利用者であるなど隔てなく日常の家事に取り組み、自然な関係が保たれ、利用者は落ち着いて過ごしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメントをセンター方式に記載して介護計画を作成し、暮らし方の希望に添うように努力している。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	職員は家族が来所するとき意見や要望を聞き、利用者が満足できる介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的に3～6カ月で介護計画の見直しを行っている。介護計画の内容が毎日の記録用紙に予め記載されている。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人の希望に添ってその時の要望に応じて外出支援など適宜行なっている。また、病院の通院介助も行なっている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者の往診記録、受診記録を整備し、本人や家族の希望でかかりつけ医師とのかかわりを重視して支援している。また、定期的に来る医師も確保している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	2階への昇降は階段のみでエレベーターの設置は無理となっている。終末期の前に生活が困難になった場合の対応について話し合いをしている。なお、1階に居室が2部屋あり、車椅子対応は可能である。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	事業所でプライバシーポリシーを取り決め、分かる場所に一覧表の掲示がある。声掛けなどに配慮がある。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	会話の中から日常の生活の要望などできるだけ満足するように支援している。外出、献立、オヤツ、入浴など具体的な要望に取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	女性ばかりの利用者で、食事については準備、調理、盛付け、いただきます、ごちそうさま、片付け、食器洗い、茶碗ふきなど一連の作業を希望者は当番表を作成して取り組み利用者の満足度は高い。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週に3日、入浴日を決めているが利用者のペースに合わせて楽しみとなるように支援している。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりに合わせた張り合いがほかの利用者にとっても楽しみごととなり、畑作業、家事の仕事、よもぎとりや地域の老人会の参加など気晴らしを考慮しつつ、支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	事業所の行事としてのお花見、遠足、食堂へ、水族館など戸外に出かける取り組みを実施している。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関は日中は鍵をかけないで自由に出入りが出来る。なお、居間のガラスが透明でみとろしがよい。また、玄関の戸の開閉時は把握ができるように、チャイムが取り付けられている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	事業所の隣の住人と協力をいただき避難訓練を実施した。写真により記録が整理されている。職員は小樽消防署主催の訓練に参加して学び、参加証明書を保持している。		
<b>(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の献立は職員が考え、食後に記録を記載している。自由に決めているが利用者は美味しく食べている。	○	栄養摂取や水分チェックなど専門家の点検が望まれる。
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1)居心地のよい環境づくり</b>					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	事業所の前はバス通りであり、騒音もあるが、ホーム内は明るい造りで名称どおり花が至る所に飾られ暖かい雰囲気居心地の良い住まいである。共用の空間も利用者にとって落ちつける場所になっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は2階に多くあり、階段を利用しているが、安全に配慮されている。各居室はベッドの人、ござを敷いて布団の人それぞれに希望に合わせた馴染みの居場所になっている。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。